

木更津高専「下水道」で学生ワークショップ

木更津高専では11月20日、土木工学を学ぶ環境都市工学科4年生と環境建設工学専攻の1・2年生を対象に、アクティブ・ラーニングの一環として『水ビジネスと下水道』をテーマにワークショップを開催した。

この取組みは、産学官などの立場を越えて下水道の魅力などの広報に取り組む若手・中堅技術者を中心とした集まりである。「下水道を未来につなげる会(未来会)」の下水道広報プラットホーム(GKP)活動と連携し、地元の木更津市下水道処理場の協力のもと実施されたもの。高専生を対象とした取組は、今回が初めて。

ワークショップでは、未来会関係者によるオリエンテーションと「暮らしの中の下水道」と題した講義を聴講した学生たちは、引き続き下水道処理場を見学し技術的な説明を受けた。また説明後に6班に分かれた学生たちは、「水ビジネスを考える一因として『下水道とは何か』についてポスターを作ってPRする」という課題のグループワークに取り組み、下水道がある世界とない世界との比較や、自分た

ちと下水道の関わりのもとめなど、模造紙にカラーマジックを駆使してポスターを制作し、プレゼン内容も含めて出来栄を投票し合って優秀賞を決定した。

同校では、今回のワークショップを通して、普段見ることのできない技術の現場に触れ、第一線で活躍する技術者と交流し、さらには自身の考えをポスターにまとめて発表するという一連の体験により、下水道という生活を支える重要なインフラに対する学生たちの理解と関心が一層深まることを期待している。



ポスター発表を行う学生ら

きない技術の現場に触れ、第一線で活躍する技術者と交流し、さらには自身の考えをポスターにまとめて発表するという一連の体験により、下水道という生活を支える重要なインフラに対する学生たちの理解と関心が一層深まることを期待している。



下水道処理施設の説明を受ける学生ら

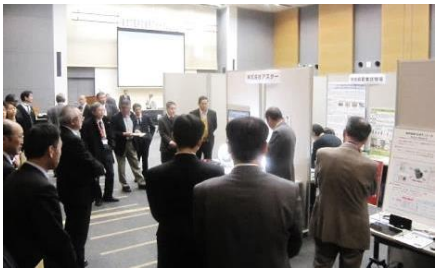
あきた産学官連携フォーラムを開催(秋田高専)

県内企業や大学等、公設研究機関が研究成果を発表する「あきた産学官連携フォーラム」が、去る11月25日に秋田市民交流プラザ「アルヴェ」で開催された。

「あきた産学官連携フォーラム」は、秋田大学、秋田県立大学、秋田高専等が組織する実行委員会が主催し、2008年から毎年実施している。

今年も秋田高専が幹事校を務め、『今輝く！秋田の地域資源・トップ技術!!』をテーマに、基調講演や研究・事例発表、研究シーズ・連携事例展示が行われた。

研究・事例発表では、秋田高専物質工学科の上松仁教授が「未利用間伐材等を消化しやすいように微粉砕した新規木質飼料の開発および混合飼料への活用」と題して発表し、訪れた人々は熱心に聴講していた。また、研究シーズ・連携事例展示では、28の出展ブースと、経済活性化につなげようと新たに開発した技術や、工夫をこらした品々が披露され、出展企業によるショートプレゼンも行われた。今後このようなフォーラムを通して、さまざまな分野で活躍している有識者と情報交換や意見交換を行い、連携を深め、地域活性化につながるよう努める方針だ。出展企業によるショートプレゼン



上松秋田高専教授による研究・事例発表

